

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	寛骨臼形成不全患者における手術時年齢と骨盤解剖学的パラメーターの関連
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 2008年から2020年の間に新潟大学医歯学総合病院でDDHに対して寛骨臼回転骨切り術が施行された患者（150例） 【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで 【過去の研究課題名】 なし	
③概要	
寛骨臼形成不全（DDH）は本邦における変形性股関節症の主要因です。DDHによる二次性の変形性股関節症に伴った症状（主に疼痛）が出現し、手術に至る年齢は様々であり、10代から症状が出る患者もいれば、60歳以降に症状が出る患者もおり、さまざまです。 以前我々はCT画像から再構築された骨盤三次元モデルから得られる骨盤解剖学的な角度が骨盤の前後傾や脊椎配列に影響を与えることを報告しました。しかしながら手術時年齢と骨盤解剖学的な角度および骨盤前後傾との関連は評価されていませんでした。本研究の目的は手術時年齢と骨盤解剖学的な角度および骨盤前後傾との関連を調査し、その特徴を理解し、予防対策を検討することです。	
④申請番号	2024-0207
⑤研究の目的・意義	寛骨臼形成不全（DDH）は本邦における変形性股関節症の主要因です。DDHによる二次性の変形性股関節症に伴った症状（主に疼痛）が出現し、手術に至る年齢は様々であり、10代から症状が出る患者もいれば、60歳以降に症状が出る患者もおり、さまざまです。 以前我々はCT画像から再構築された骨盤三次元モデルから得られる骨盤解剖学的な角度が骨盤の前後傾や脊椎配列に影響を与えることを報告しました。しかしながら手術時年齢と骨盤解剖学的な角度および骨盤前後傾との関連は評価されていませんでした。本研究の目的は手術時年齢と骨盤解剖学的な角度および骨盤前後傾との関連を調査し、その特徴を理解し、予防対策を検討することです。また、若年者で手術になる症例の特徴（危険因子）を把握することで、関節症変化が生じる前に手術を提案することが可能になると考えられます。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用	本研究対象は、手術前後に撮影したCT画像を用いるため、対

方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	象者に不利益が生じることはないと考えられます。利用は当院のみで行います。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	2008年から2020年の間に新潟大学医歯学総合病院でDDHに対して寛骨臼回転骨切り術が施行された患者150例
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp